

育ての親との再会 ～お盆帰省～



荷物を詰め込み、出発！

皆さん、こんにちは。日本では秋の涼しさを感じるころでしょうか。こちらカンボジアは、日中は日差しが強く非常に暑いですが、夕方には涼しい風が吹き、過ごしやすい季節になりました。

カンボジアの学校では10月より新学期が始まりますが、学校の清掃などを行うため、9月半ばより子どもたちは元気に学校へ通い始めました。また、9月末にはお盆休みがあり、園の子どもたちは親戚の家へ1週間の里帰りをしました。

今回のDream通信では、お盆帰省の子どもたちの様子と新しく入園した子どもについてお伝えします。

お盆帰省

カンボジアでは3日間のお盆があり、その前後1週間ほどは学校などが休みとなります。今年のお盆は9月22日、23日、24日の3日間でした。このお盆は日本と同じように先祖を供養する期間であり、カンボジアの人々は皆お供え物を持ってお寺にお参りに行きます。

園では毎年このお盆と、4月にあるカンボジアのお正月の2回、子どもたちが園に来る前に一緒に暮らしていた育ての親の元へ1週間ほど帰省します。

この一時帰省は、子どもたちにとって、とても大切な意味があります。元の家での暮らしは、衣食住が満足に足りている環境ではありません。普段園で何不自由なく暮らせていることが当たり前ではないことを改めて感じる事が出来ます。また、育ての親や親戚と、園での生活、学校の成績、将来についてよく話し合い、自分たち自身で園での生活をよく振り返ります。

今回の帰省では、19日と20日の2日間にわけ、子どもたち全員をそれぞれの育ての親の元に送り届けました。家では親戚や近所の人たちがたくさん集まり、半年に1度の子どもたちの帰りを楽しみに待っていました。

職員から、子どもたちの学校での成績、園での生活態度について報告をします。成績の良かった子、園で農作業やお手伝い



園の友だちとはしばらくお別れです



成績や生活態度について話し合い



お互い元気でね、と声を掛け合います



園に戻る車中も賑やか



ピカピカの1年生です！



ノートに文字の練習

を頑張っていた子は、親戚から「よく頑張ってるね、偉い！」と褒められ、照れくさそうにしていました。また、中には注意される心当たりがあるため、離れたところで職員と親戚の話を見守っている子どももいました。いずれにしても1週間の間に、園での生活、将来についてよく話しをすることを育ての親にもお願いし、子どもたちにも伝えました。

あつという間に1週間は経ち、園に帰る28日、朝から子どもたちの家を回り迎えに行くと、子どもたちは全員元気いっぱいでした。外でたくさん遊び、農作業の手伝いを頑張り、子どもたちの顔は日焼けで真っ黒になっていました。

育ての親、親戚たちとまた半年間お別れです。新しい学年になっても勉強を頑張ることを約束し、車に乗り込みました。車の中では、お互いどのようなお盆休みを過ごしたか、親戚と観光に出かけたこと、近所の友達と遊んだこと、お寺にお参りに行ったことなどを報告しあっていました。

また、帰省中毎日つけていた日記には、育ての親と話し合いをしたことや、家で小さな従兄弟の面倒を見たこと、薪割りや畑仕事をしたこと、親戚と一緒に市場へ行ったり料理を作ったりしたことなど、お手伝いをした内容がびっしりと書かれていました。

今回の帰省でも育ての親に、そして今の園での生活にも、感謝の気持ちを見つめなおせたことと思います。新たな学年を迎えるにあたって、その思いを忘れず、これからも勉強、農作業に頑張ってもらいたいと願います。

新入園児

9月28日、今回の帰省から園に戻る車の中には、新しい仲間がひとり増えていました。

ヒアン・セインホーン、6歳の男の子です。ひとつ年上の姉が先に入園していましたが、今回セインホーンも小学校へ入学する歳となったため、園に来ることになりました。

園に来て数日のため、慣れない環境での生活に緊張がありますが、姉や友達と遊ぶ時にはとても元気で、楽しそうに笑う声もきかれます。最年少のため、まわりの子どもたちからも世話を焼かれ、可愛がられています。

勉強では、さっそく小学校へ通い始め、園でも保母さんや姉に教わりながら文字の書き方から勉強しています。とても泣き虫で勉強中もすぐに泣きだしてしましますが、保母さん、姉から励まされ、泣き止んではノートに向かいます。

まだまだ小さい男の子ですが、将来は医者になって、多くの人々の病気を治したいという夢を持っています。これからどんどん大きくなっていく中でたくさんのことを学んでいき、そして将来立派な大人になって、夢を叶えてもらいたいと思います。